



## 第2回自然と親しむ子ども山登り教室無事終了！

第2回「自然と親しむ子ども山登り教室」が、無事に終了しました。最後の蝶ヶ岳登山では、小学4年生のK君が、明神から徳沢に向かう途中で転んだ際に、右肘を骨折してしまい、山頂まで行かずに、スタッフの同行のもと、引き返すことになってしまいました。現在は、次の登山に向けて順調に快復中とのことです。

小学5年生のJちゃんは、しっかりした足取りで、全ての山を踏破しました。最後の蝶ヶ岳は、すばらしい天気にも恵まれ、山頂から槍穂高連峰の大展望や御来光を楽しみました。

今回の体験をもとに、これからは通常の「共に楽しむ登山」で、山のすばらしさを満喫していただきたいと思います。

### 武甲山(6月15日)報告

参加者 小5女子1名、小4男子1名  
スタッフ7名  
別働隊 スタッフ4名  
会員(健常者4名)

ユウイチ」と鳴いている。みんな目を凝らして探したが、残念ながら見つからず。



大杉の前に立つ3人の子もたち

横瀬駅からタクシーに乗り、セメント工場などを見ながら、生川(うぶがわ)の登山口、一の鳥居まで入る。ここで、自己紹介と準備体操をしてから出発する。さすが奥武蔵を代表する山だけあって、登山者が多い。

沢沿いの広い道を登り、一の鳥居の一丁目からどんどん丁目を稼いでいく。登山道に入り、杉林をしばらく登ると、不動滝が現れ、これが十八丁目だった。カッコウの仲間のジュウイチが、すぐ頭の上の木に止まって、大きな声で「ジ

尾根に飛び出すと、大杉の広場だ。大きな杉をみんなで手をつないで計ってみる。4人から5人くらいが手をつながないと一周できなかったようだ。

ここからは傾斜も落ちて、登りやすくなる。ただ、K君が少し疲れてきたようだ。それでも、足下にたくさん落ちている石灰岩を拾おうとしている。この山は石灰岩の山なので、どこでも拾えるから帰りに拾うことにして、山頂まで

頑張る。

神社が見えてくると、山頂直下の分岐だった。ここで多くの人たちが休憩しているが、山頂の方が展望がよいだらうと、先に行って下見をする。みんなで休憩できるスペースもあり、山頂で休憩することにする。山頂(第一展望台)からは、すばらしい展望が広がっている。足下の秩父市街が箱庭のようだ。霞んでいて、遠くまでは見えないが、気持ちの良い山頂で昼食にする。



昼食後、第二展望台も見てみたが、ここはあまり展望が良くなく、狭いのでお勧めではない。展望台を後に下り始めると、小型の鐘がぶら下がっていた。Hさんの叩いた音に誘われて、JちゃんとK君も突いてみた。小さくても、周囲に響く大きな音だった。

### 雲取山(7月5日～6日)報告

参加者 小5女子1名、小4男子1名  
スタッフ6名  
別働隊 スタッフ3名  
会員(健常者4名)

7月5日

奥多摩駅からバスでお祭に向かう。乗客が非

大持山方面への分岐から、裏参道に入っていく。トラバース気味の登山道を慎重に子どもたちをサポートしながら下る。長者屋敷の頭は、ピークではなく、尾根と山腹の境目のようなところだった。ここからは、気持ちの良いなだらかな尾根となる。カラマツの新緑も美しい。

気持ちの良いところで休憩した後、尾根から下る急なジグザグ道に入っていく。全盲のAさんたちは、ぐんぐん下っていく。Jちゃんも後を追って、Yさんと一緒に下っていった。

沢の音が次第に近づき、長かったジグザグ道もようやく終わった。しばらく沢沿いの道を歩き、林道に出て休憩する。子どもたちとTさんは、快調なペースで歩いていく。橋立鍾乳洞の茶店で休憩する。ラムネなどを飲んでいると、女将さんが漬け物を出してくださった。女将さんから名刺までいただき、また休憩だけでよいので、利用して欲しいとのこと。来る前に電話をもらえば、漬け物を準備してくださるそう。ありがたくいただき、浦山口に向かった。

### コースタイム

一の鳥居(9:45)...十八丁目不動滝(10:30)...大杉の広場(11:20)...武甲山(12:20-13:00)...橋立鍾乳洞(15:50-16:10)...浦山口駅(16:20)

常に多く、バスが1台追加で出てくれた。後から追いかけてくるYAさんを除いて、他のメンバーはお祭で集合し、後山林道を歩き始める。昨年と同様、この林道にはオオルリが多い。しかし、なかなか姿をはっきり見ることはできなかった。

塩沢橋で昼食にする。K君は東京都の水源に興味があるようで、石柱があるたびに、写真を撮ってほしいとせがまれた。

林道終点から、山道に入る。沢沿いの道は、急斜面に付けられているため、子ども一人に大

人が前後に二人付き、慎重に歩く。



三條の湯まで10分という看板を過ぎて、少し行くとテントが見えてきた。橋を渡って、ジグザグの道を上ると、そこが三條の湯だ。受付を済ませ、すぐにお風呂に入って汗を流す。すると、激しい雨が降り始めた。着くのがあと1時間遅ければ、間違いなく、この雨に掴まっていた。幸運を喜び、Y Oさんの指導で整理体操をして、身体のこりをほぐした。

夕食を済ませ、早々に床につく。20時頃、ヒメほたるが見られるかも知れないということで、子どもたちと一緒に小屋の上を探したが、見つからなかった。

7月6日

今朝は3時起床。K君は、あまり眠れなかったようだ。

朝食の弁当をザックに詰め、準備体操をして、出発する。4時5分に出るが、まだ谷間は暗い。ヘッドランプを付けて歩き始める。足を踏み外さないように慎重に歩を進める。

JちゃんとK君は、睡眠不足であまり体調が良くないようだ。荷物を分担して、ゆっくりと登っていく。

展望の良い尾根上に出ると、飛龍山がのぞまれた。この頃には、子どもたちも元気を取り戻していた。三條ダルミへの長いトラバース道を、少しずつ高度を上げながら歩く。もうそろそろと思うが、なかなか着かない。それでも左上の

縦走路を歩く人たちが見え始めると、ひょいと三條ダルミに飛び出した。まだ、朝食を食べていない人たちは、ここで朝食にする。ブヨなどの虫が顔の周りを無数に飛び交い、少しでも避けようと場所を変えるが、なかなか離れてくれなかった。

ここから最後の山頂への登りが始まる。振り返ると、後に見える飛龍山ともう同じくらいの標高だ。山頂から降りてきた人に「富士山が見えましたか」と誰かが聞くと、「見えましたよ」という返事に歓声上がる。とにかく、今回の子ども山登り教室は、すかっと晴れる日がなくて、富士山を一度も見えていない。今回こそはと期待が高まる。山頂の手前で、Hさんが富士山を見つけた。霞んでぼんやりとだが山頂に雲をかぶったり、残雪のある富士山が望めた。やっと役目を果たせたような嬉しい気持ちにさせられた。

最後の登りを頑張ると、山頂の一画にある避難小屋に到着する。ここにザックを置き、山頂を往復する。燦々と降り注ぐ太陽の下で、写真を撮ったり、ビデオを回したりして楽しむ。東京都の最高峰に立って、気分もハイになったようです。



山頂からは、富士山の他に、西側に飛龍山、その右手奥に金峰山や国師ヶ岳、甲武信ヶ岳が見えていた。

避難小屋に戻り、休憩のあと下山にかかる。防火帯として切り開かれた尾根だが、ここはい

つも気持ちよく歩ける。ピンズイが枝先で、こっちを見てほしいと主張しているように、近くで元気に囀っていた。



奥多摩小屋で休憩し、マルバダケブキの葉が無数にある尾根を歩き、ブナ坂に到着する。今回は、ここから七ツ石山に登ることにする。七ツ石山は雲取山の最高の展望台だが、雲取山の山頂付近は、すでに雲がかかり始めていた。

水場で冷たい水を補給し、七ツ石小屋を通過し、ぐんぐん下る。ただ、足がいたいと言いはじめたK君は、疲れが出てきたようだ。堂所の手前で昼食にする。Hさんが、ラーメンを作ってください、それを食べた子どもたちは、力を快復して元気に歩き始めた。

### 蝶ヶ岳(8月1日～3日)報告

参加者 小5女子1名、小4男子1名  
スタッフ5名  
別働隊 スタッフ1名  
会員(障害者1名、健常者2名)

8月1日

暑い東京をあとに、スーパーあずさ、松本電鉄、路線バスを乗り継いで、上高地に入る。上高地は、さすがに涼しく別天地だ。

鴨沢からのバスは、予定よりも1本遅れるかなと思ったが、順調に下っている。左手の下に林道も見え始めた。廃屋を過ぎ、畑を横切って、車道に飛び出した。ここから、もう少し山道を頑張って降りると、バス停に到着した。ポツポツと降り始めた雨は、私たちがバス停に着くと同時くらいに雨足を強めてきた。今回は、雨も降ったが、ほとんど濡れることがなく、ラッキーでした。

奥多摩駅でもえぎの湯に行くグループとそのまま帰るグループに分かれて、解散にする。びしょりかいた汗を流し、すっきりして帰宅の途につきました。もえぎの湯から駅まで、車で何度も往復していただいたHさんに感謝いたします。

### コースタイム

7/5 お祭(10:25)...塩沢橋(12:00-12:30)...林道  
終点(13:35-13:45)...三条の湯(14:15)  
7/6 三条の湯(4:05)...三条ダルミ(7:25-7:50)...  
雲取山(8:35-8:50)...奥多摩小屋  
(9:30-9:40)...七ツ石山(10:30-10:40)...堂  
所(12:30)...鴨沢(14:25)



昼食を食べ、河童橋でみんなで記念写真を撮る。河童橋からは、梓川右岸の遊歩道を歩いて、明神に向かう。木道などから子どもたちが落ちないように注意しながら歩く。途中、清流では

イワナも見られた。

明神橋に着くと、明日登る蝶ヶ岳が梓川の向こうに見えた。明神橋は、吊り橋のため、良く揺れる。橋を渡って、少し歩くと、明神館だ。ここで休憩とする。Tさんたちが青リンゴを振る舞ってくださった。

ここから徳沢に向けてさらに林道を歩く。徳本峠(とくごうとうげ)への分岐を過ぎ、急坂を登り、下りにかかった時、後で「痛いー!」という大きな声が聞こえる。振り返ると、K君が転んでいる。足も擦り傷を作っていたが、痛いのは右肘だということだ。肘の角度を少し動かしただけでも激痛が走るようで、動けないと言う。ここにじっとしているわけにはいかないので、徳沢にある診療所で見てもらおうと思い、頑張って歩こうと励ますが、なかなか立ち上がれない。立ち上がって少し歩いても、肘に響いて痛くて動けないという。困ったが、それでも、K君は頑張って歩き始めてくれた。

速く歩けないため、NさんやJちゃんたち4人に先に徳沢に行き、遅れることを伝えてもらうことにした。

K君は、少しずつペースも上がり、しっかりと歩き始めた。梓川が近づく頃、NさんとT君が徳沢から戻ってきた。診療所に状況を話してください、医師は状況からして脱臼ではないかということだった。

徳沢に着いたら、すぐに診療所に行き、見ていただいた。完全ではないが、脱臼を治す処置をしていただき、かなり痛みが治まってきたようだ。しかし、登山を続けることはできず、早く下に降りて、レントゲンを撮ってもらわないといけないとのこと。先生にお礼をいい、ロッジに戻った。

ロッジで今後の予定を話し合い、明日、K君と一緒にTUさんとTAさんに付き添って帰っていただくことにした。

夜、K君と数人で、星空を見に外にでた。見

える空の範囲が少しせまいため、星座までは分からなかったが、K君は、星の多さに感激していた。

8月2日

朝起きて、K君の右肘を見ると、少し腫れている。昨晚は、山に登りたいとまで言っていたK君だが、朝起きて、痛みが少し増していることであきらめがつき、悔しい思いを胸に帰ることにする。



本隊は、朝食を済ませて、蝶ヶ岳に向けて出発する。K君は、登り口まで見送りに来てくれた。徳沢から見える前穂高岳に、「うわー、すごい」と感激していた。山は逃げないから、またいつか登ろう。

徳沢からは、いきなりの急登が始まる。大きな段差も次々現れ、よっこらしよと越えていく。しかし、高度はぐんぐん稼げる。2000m付近の平坦地でゆっくり休み、さらに登っていく。幾分、傾斜は落ちたが、まだまだ急登は続く。2200m付近から右側にトラバースして尾根にでる。ここでまた休憩する。

ここからは、今までと比較してぐっと傾斜が落ち、緩やかな登りとなる。途中で、Mさんが木の間から槍ヶ岳を見つけた。みんな感激している。二重山稜のような平坦地を過ぎると、長堀山に到着した。ここは三角点があるが、残念ながら展望がない。

ここからは、いくつか小さな池とピークを越

えていく。ミヤマキンポウゲやキヌガサソウ、ハクサンフウロ、クルマユリなどの高山植物も次々と現れてくる。



妖精の池に到着すると、一気に高山植物が増える。ハクサンチドリ、テガタチドリ、ハクサンポウフウなどなど、すばらしいお花畑が広がる。

さらに登ると、森林限界に飛び出し、窪地には残雪が残っていた。Yさんと子どもたちが雪渓まで行き、雪に触っている。この付近も、ハクサンイチゲ、クロユリ、チングルマ、アオノツガザクラなどのお花畑だ。

窪地の上部からは、槍ヶ岳がはっきり見えている。穂高連峰も見え、歓声が上がり、しばし展望に酔いしれる。少し上に上がると、蝶ヶ岳ヒュッテが見えてくる。ハイマツ帯を登り、砂礫地を登ると、蝶ヶ岳の山頂に到着した。

大滝山方面から来る、Hさんにコールを送ったが届いただろうか？ 山頂で昼食とする。槍穂高連峰から常念岳、大天井岳などの大展望を欲しいままに食べる昼食は、何の変哲もないあんパンでも美味しいものだ。

蝶ヶ岳ヒュッテで受付をしていると、Hさんが到着した。グッドタイミングでした。Hさんに聞くと、大滝山から蝶ヶ岳の間は、人が非常に少なく、しかもお花畑が続いて、すばらしいコースとのこと。いつか行ってみたいですね。

ヒュッテに荷物を置き、予定通り蝶ヶまで往復する。東側は雲で展望が得られないが、西側

の槍穂高連峰は、時折雲に隠れることがあるものの、よく見えている。稜線散歩の気持ちだ。稜線には、チシマギキョウやイワツメクサ、オヤマソバなどが咲いている。広い稜線が狭まって、少し盛り上がった岩のピークが蝶ヶだ。ここまで来ると、常念岳が間近に迫り、槍ヶ岳も近づき、槍沢がよく見える。



展望を楽しみ、記念写真を撮って、来た道を引き返す。残念ながらライチョウには出会えなかった。長いコースを歩いてきて疲れたHさんは、ゆっくり休みながら行きたいという。子どもたちは、Hさんと一緒にいたいと、ゆっくり歩いている。



ヒュッテに着いたら、子どもたちは長堀山方面にあった小さな雪渓に遊びに行きたいと言う。Yさんが、子どもたちを連れて、一緒に遊びに行ってくれた。

夕食後、夕日を撮影しようと外にでたが、雲が多くあまり良い状態ではなかった。しかし、それから30分位したら、「外の景色がすごい」

という言葉聞き、カメラを持って外にでた。穂高岳上空の雲が真っ赤に色づき、この世のものとは思えない光景を作り出している。シャッターを何回も切るが、すばらしい光景は一瞬にして消え去っていった。自然は、どんなすばらしい光景も、一瞬にして消してしまう。執着心に囚われることのない自然には、ただただ頭が下がる思いだ。

日没後、暗くなるのを待って外にでたが、雲が多く残念ながら満天の星空は望めなかった。翌朝に期待する。

8月3日

明け方の3時頃、Nさんが満天の星空が見えるというが、4時頃に出ることにして、もう少し休む。

4時頃、Jちゃんを起こし、外にでてみるが、東の空が白みはじめていて、もう満天の星空とはいかなかった。それでも、都会では見られない星空に、Jちゃんは喜んでいた。

星を見たあと、そのまま起きて、小屋の中で日の出を待つ。4時半頃、日の出を見るために、蝶ヶ岳の山頂まで行く。槍穂高連峰もよく見え、今日もすばらしい天気だ。南の方には、富士山や南アルプスもよく見えていた。八ヶ岳や浅間山、頸城の山々も見える。乗鞍岳や御岳も見えている。



御来光

浅間山の左側が眩しくなり、おごそかな御来光が姿を見せてきた。ビデオや写真を撮り、朝

日に染まった西側の槍穂高連峰にも目を向ける。山の夜明けのいつもの光景だけど、やはり心洗われる一時だ。



蝶ヶ岳山頂にて、背景は槍ヶ岳

ヒュッテに戻って、朝食の順番待ちをする。1時間近く待って、朝食にありつき、出発の準備をする。

小屋の前で、屈伸や足のストレッチなど簡単な準備運動をして出発する。山頂に立ち寄り、記念写真を撮って、名残惜しい展望に別れを告げ、長堀尾根を下る。子どもたちは、昨日遊んだ残雪のところで、マスターした雪滑りを楽しんでいる。



蝶ヶ岳から見た朝の穂高連峰

登りと同じコースをぐんぐん下り、長堀山を過ぎ、2000m付近の平坦地から、急な斜面をどんどん下っていく。やがて、梓川が近づき、沢音が大きくなると、徳沢園の赤い屋根が見えてくる。気を緩めず、慎重に下っていき、徳沢に11時5分に到着する。徳沢から上高地に向けて歩き始めると、アオジが近くで歌っていた。ビデオや写真に収め、子どもたちにも見てもら

う。



ハクサンイチゲ

明神に向けて少し行ったところで、Yさんには神戸に帰るバスに遅れないように、みんなと別れて先に行ってもらおう。Yさんには、3年間、とてもお世話になった。今回も、子どもたちのお兄さん役として、一緒に遊んでいただいた。彼が神戸に行ってしまうのは、山仲間アルプとして大きな痛手だが、ふるさとの神戸でまた充実した人生を送って欲しい。そんな思いを胸に、Yさんと別れた。

私は、バスの予約を取るため、明神から先を急ぎ、バスの整理券を確保して河童橋まで戻っ

た時、みんなと合流した。アルペンホテルのお風呂に入り、バス停の売店の2階にある食堂で、遅い昼食を取る。

新島々と松本の乗り継ぎが悪く、1時間半ほどロスしてしまい、松本18時35分のスーパーあずさで新宿に向かった。

「第2回自然と親しむ子ども山登り教室」は、いろんなことがありましたが、これで全日程を終了しました。子どもたちにエールを送り、協力していただいた全てみなさまに深謝申し上げます。本当にありがとうございました。

### コースタイム

8/1 上高地(13:35)...徳沢(17:15)

8/2 徳沢(7:15)...2,000m 付近(8:35-8:50)...長  
堀山(11:20-11:30)...蝶ヶ岳(13:00-13:30)  
...蝶ヶ岳ヒュッテ(13:35-14:00)...蝶ヶ  
(14:40-14:55)...蝶ヶ岳ヒュッテ(15:45)

8/3 蝶ヶ岳ヒュッテ(7:00)...長堀山(8:05-8:20)  
...徳沢(11:05-11:30)...上高地(13:05)

## 自然と親しむ子ども山登り教室感想文(第2回大岳山)

2回目なのに、かんちゃん(かんとろう)(きんとろう)(きんちゃん NEW)がほんの少しかわったと思いました。まだ2回目なのに・・・と思いました。(3回目で分かります！・・・と思う)しょうじきよく分かりません。 J.Nさん

今回の大岳山は、山の会の2回目だった。

けれど、前の陣馬山より400mぐらい高い、1266mの高さだった。ぼくにとって、1000mごえははじめてだった。と中、大滝の近くの道から、すべってころんで、沢の方に1mぐらい落ちてしまった。ぼくが落ちたら、Aさんもすぐに落ちこちて(?)くれたが、足下に木の根っこがあったので、助かった。

大岳山そうに着いた時は、もうへとへとのバテバテバテだった。山頂までは、岩山だった。頂上では、「大岳山 一二六六.五」の標識の前でみんなで写真を撮って撮って撮りまくった。

御岳山までは、2時間ぐらいかかった。頂上に行きたかったけど、時間がなかった。ケーブルカーで登山口までおりた。

感想は、今回は1000mごえしたけど、いつか2000mごえをしたい。 K.K君

### 自然と親しむ子ども山登り教室感想文（第3回武甲山）

おどろいた事

1. いくつも小屋があったこと
  2. Aさんが次の雲取山、ちょうがたけに行かない（登らない事）
  3. せっかい石がいっぱいころがっていたこと
  4. かねがあったこと
  5. かんちゃんごろんだこと
  6. とてもせまい道があったこと
  7. Aさん達が速かったこと
  8. 山頂がこんでいたこと
- J. Nさん

今回の武甲山は、横ぜの駅から見たけしきがすごくダイナミックでした。長者屋しきの頭からの急しゃ面で、じゅんちゃんやゆうちゃん、Aさん達の背中が、どんどん遠くなっていくのがくやしかったです。これからもがんばりたいです。

K. K君

### 自然と親しむ子ども山登り教室感想文（第4回雲取山）

1. とにかく虫が多くて大へんだった。
  2. リックの中に虫がいた。
  3. 東京一高い山に登った気がしなかった。
  4. 人数が少しへった。
  5. 雲取山なのに雲が取れなかった。
- J. Nさん

今回の雲取山は、いつも山に毎月いっているせいか、そんなに（！？）きつくありませんでした。

実は、生まれて初めて、山小屋に泊まったので、いい体験ができたなあと思います。

3時起きはつらかったけど、歩いていると、ねむ気がさめてきました。

印象に残ったところは、黄緑色の明るい林の中を歩いていると、山と山の間にまっかな太陽が顔を出しているところ（時計を見ると7時だった）や、山頂から、はるか向こうに富士山が雲の上に見えるところでした。

K. K君

### 自然と親しむ子ども山登り教室感想文（第5回蝶ヶ岳）

1. やっぱり一番さいごの山の方が楽しかった。
  2. 虫はいたが少なかった。
  3. かんちゃんが山頂まで行けなかった。
  4. Aさんが送ってきた写真を数えたら25まいもあっておどろいた。
  5. 360°の大パノラマだった。
  6. ようせいの池があまりにもきたなかった。
  7. かんちゃんがちりょうをしてもらっていた時に、ひめいがきこえた。
  8. 日の出がきれいだった。
  9. ふじ山がまあまあだった。
  10. やりヶ岳の話をきいてゾツとした。
- J. Nさん

## 自然と親しむ子ども山登り教室 親御さんから寄せられた感想

子ども登山教室に参加させていただき、ありがとうございました。おかげ様で5回の山行全てに参加することができ、経験を積ませていただきました。天気に恵まれ、何よりでした。

山に登る達成感を十分に味わうことができ、より一層山が大好きになったようです。山に登らないと出会えないことがたくさんあると思いますが、今回の蝶ヶ岳では、森林限界や御来光や小さな雪渓、きれいな高山植物（雷鳥に会えなかったのは残念でした）など、素敵な思い出がたくさんできました。写真がどんどんたまっていくので、親の手を借りずに、自分でアルバムの整理を始めました。

支えていただいたスタッフの皆様、ありがとうございました。今後も、続けたいと切望していますので、よろしくをお願いします。  
J・Nさんのお母さんから

## 山行報告

「学びあい」と書いてある登山及びハイキングは、文部科学省委託「学びあい、支えあい」地域活性化推進事業です。

### 国師ヶ岳・北奥千丈岳(6月8日)

参加者 会員(障害者2名、健常者6名)

上空の雲はかなり厚いが、すぐに降り出しそのような気配はない。塩山駅から長いタクシーの旅が始まる。大弛峠まで道路は舗装されていた。峠の手前で金峰山が間近に見えるところがあり、タクシーに止まってもらって写真を撮る。

大弛峠に到着すると、すぐ近くになんとキクイタダキが現れてくれた。ルリビタキも囀っている。

峠で挨拶をして出発する。大弛小屋の脇を通って登山道に入ると、すぐに残雪が現れた。残雪があることは想定していなかったが、危険な箇所はなく、すぐに木の階段や木道が現れた。この木の階段は、今回の上り下りの部分のかなりを占めていた。皇太子さまが来た時に、整備したのだろうか？

少し登ると夢の庭園に到着。ここは、大きな岩の間にシャクナゲが点在するが、今年はシャ

クナゲの花の外れ年なのだろうか？一つも咲いていなかった。ただ、展望はすばらしい。振り返ると金峰山や朝日岳、その右手に小川山と兜岩、足下には車で登ってきた林道が走っている。



木の階段を登る

夢の庭園から稜線の道に戻り、木の階段を登っていく。さらに登ると、前国師ヶ岳に到着。これから行く国師ヶ岳と北奥千丈岳がよく見える。再び現れた残雪を登っていくと、北奥千丈岳に到着した。ここは、奥秩父山塊の最高地点。雲に包まれて遠くは見えないが、晴れていたらすばらしい展望だろう。

お昼を食べていると、3人のグループが登ってきて、国師ヶ岳の山頂から私たちが見えたという。



昼食後、国師ヶ岳を目指す。来る時にうっかり見落としていた分岐まで戻り、15分で国師ヶ岳に到着する。先程、北奥千丈岳に登ってきた

### 入笠山(6月29日)「学びあい」

参加者 会員(障害者3名、健常者8名)  
会員外(健常者1名)

今回は間違いなく雨が降る予報で、迷いに迷ったが、参加予定のみなさんにそれぞれ聞いた上で、雨でも参加したいという方がいたので実施した。

今朝、家を出る前にパソコンで気象庁の「リーダー・降水ナウキャスト」を見ると、長野県は午前中に雨のピークが過ぎそうに感じた。家を出る時も新宿を出る時も、雨は降っていたが、この程度なら十分歩けると思った。

富士見に着いても雨は降り続けていたが、無料送迎バスに乗って富士見パノラマに向かう。ゴンドラの受付の方が、今はスズランが満開だとのこと。雨でも花は楽しめるため、嬉しい情報だった。

ゴンドラを下りて、右側のコースから入笠湿原に向かう。樹林帯のため風もなく、雨も強く

グループが手を振っている。こちらも、手を振って応える。登った標高差は少ないが、ハイマツなどが生育していて、高山帯らしさを感じられ、やはり良いなと言う声が聞こえる。

来た道を引き返し、1時間かからずに大弛小屋に到着。ここでタクシーの待ち時間まで休憩する予定だったが、タクシーは下に下りずに待っていてくれた。往復すると、ガソリン代が高くついて不経済だったのだろう。塩山温泉まで運んでもらって、肌がつるつるする温泉に浸かって、汗を流した。

### コースタイム

大弛峠(10:45)...北奥千丈岳(12:00-12:40)...国師ヶ岳(12:55-13:05)...大弛峠(13:50)

当たらない。傘を差して歩く。



入笠湿原に飛び出すと、レンゲツツジが満開だった。シラカバの白い樹肌と赤いレンゲツツジの花が、周囲の緑とすばらしいコントラスト



を見せている。湿地には、クリンソウが群生して咲いている。足下には、スズランが。黄色い花はウマノアシガタのようだ。

湿原の花を楽しみ、林道を歩いてマナスル山荘に向かう。草原のようなお花畑に出ると、すぐにマナスル山荘に到着した。山荘の前には、TさんとOさんが出迎えてくれた。Tさんたち6人は、前日、マナスル山荘に来て泊まっていたのだ。昨日は、すばらしい天気で、山頂に登り、レンゲツツジなどを楽しんだそうだ。



雨の入笠山頂にて

私たちが、荷物を山荘に置かせていただいて、山頂に向かう。少し登ると入笠牧場に着く。数頭の牛たちが草を食べていた。登山道は次第に岩混じりとなる。足の不自由なEさんも、しっ

### 富士山五合目(7月13日)「学びあい」

参加者 会員(障害者4名、健常者8名)

前日の夕方、東京や千葉県北西部は、激しい雷雨に見舞われた。今日も、午後からの雷雨が心配される。雷に注意して、早めの行動を心がける。

富士吉田駅からタクシーで馬返しまで入る。中の茶屋から歩いているパーティーもあった。馬返し近くに来ると、子どもたちが大勢いる。タクシーが慎重に登っていくと、馬返しは、子どもたちであふれかえっていた。吉田中学校の

かりと足場を固めながら登ってくる。山頂直下は、レンゲツツジの群落があり、一面を赤く染めている。

山頂は風が強かったが、みんなで記念写真を撮ってから下山にかかる。Eさんは、Nさんからストックを借りてダブルストックとした。これで、下りもかなり安定して歩けるようになった。下山は、岩場回避ルートを下る。お花畑のスズランを楽しみながら下り、マナスル山荘で昼食とする。下に下りたらユートロン水神の湯に入ることにして、ゴンドラの駅に向かう。

入笠湿原に着いた頃には、雨も上がり、スズランの写真を撮って楽しむ。来た時とは違う電波塔のコースを通過して、ゴンドラ駅に向かった。ゴンドラ駅に着くと、雲海が広がっている。その下に麓の町が見える。麓に着くと、雨も上がり、太陽が顔を出してきた。雨の中でしたが、すばらしい花たちを楽しめた1日でした。

### コースタイム

ゴンドラ上(10:45) ... マナスル山荘(11:30-11:45)...入笠山(12:15)...マナスル山荘(12:50-13:40)...ゴンドラ上(14:10)

集団登山で、私たちと同じコースに登るそうだ。総勢800人いるそうで、今日は、子どもたちのにぎやかな声を聞きながら登ることになる。



一合目付近を登る

馬返しから整備された道を登ると、ほどなく一合目に到着する。子どもたちはにぎやかに追

い越していく。にぎやかな声の隙間を見つけたように、キビタキの歌声が聞こえる。オオルリや、キクイタダキ、ミソサザイなどの声も聞こえた。



二合目を過ぎ、車道に出ると、子どもたち向けの給水車が止まっていて、子どもたちに冷えた水を振る舞っていた。そこから少し登ると、三合目だった。少し心許ないが、ベンチがあるので、そこでお昼にする。ここは、標高1,840m。休憩するとすぐに汗がひき、さわやかな空気に包まれる。

お昼を食べていると、子どもたちが美味しそうだと近寄ってくる。しかし、カップラーメンの麺を2、3本だけあげるわけにもいかず、あ

## 早池峰山(7月26日～27日)

参加者 会員(障害者3名、健常者11名)

7月26日

前夜、池袋からイーハトーブ号に乗車し、今朝、花巻に到着。イーハトーブ号は、横3列の広いバスだった。ザックなどの収納場所もあり、快適に休むことができた。

花巻から路線バスで、河原の坊まで入る。ここから歩いて小田越に向かう。タテヤマウツボグサやタマガワホトトギス、ヤマオダマキ、ゲンノショウコなどが咲いている。サンカヨウは、

きらめてもらった。

昼食も終わったと思った頃、Nさんが持ってきたお茶の袋を開けたら、爆発して、お茶が周囲の人たちにかかってしまった。今回も、一つ事件ができました。

三合目からは次第に傾斜が増してくる。溶岩の岩も出てきた。人の歩く道は、溶岩の層を崩して作っているようで、えぐれている。登山道脇では、溶岩の層が良く確認された。

崩れかけた井上小屋を過ぎ、車道に出ると佐藤小屋は近い。佐藤小屋に着くと、遠くで雷の音が始めた。雨が来る前にバス停に着きたい。

バス停に続く林道からは、自衛隊の演習場が望めた。上を見ると、山頂もわずかに顔を覗かせてくれた。五合目には、予定時間通りに着き、河口湖に行くバスを待った。

高速バスで東京に着き、バスを降りたら、ものすごい暑さと湿気、富士山や河口湖の涼しさが懐かしくなった。

## コースタイム

馬返し(10:20)...三合目(11:35-12:10)...佐藤小屋(13:50-14:05)...五合目バス停(14:30)

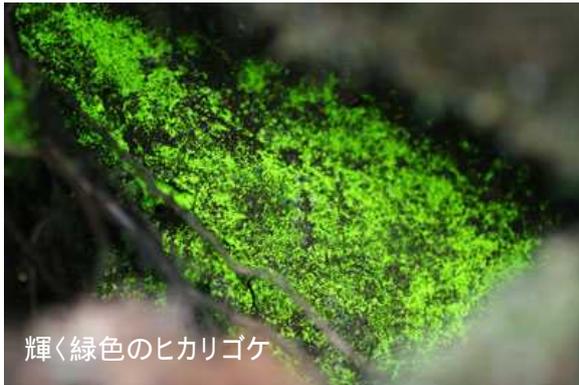
大きな実を付けていた。

小田越が近づくと道路から薬師岳が正面に見えてくる。早池峰山は、雲の中で見えなかった。

小田越で少し早い昼食を取り、薬師岳に向かう。樹林帯だが、岩も多く、段差の大きい道が続く。花はあまり咲いていなかった。ハリブキの実が、真っ赤に色づいていたのが印象的だった。

しばらく登ると、登山道を一羽の野鳥が横切った。おかしなところから出てきたなと思い、その付近を探すと、案の定、巣があり、中に白い卵が3～5個ほど見えた。鳥の種類は確認できなかったが、繁殖のじゃまをしないように速

やかに登る。



輝く緑色のヒカリゴケ

さらに行くと、岩の奥の暗いところに、ヒカリゴケを発見した。きれいなグリーン色が光り輝いているようだった。この先、何か所も見られた。こんなにヒカリゴケをはっきり見たのは、はじめてだったので感動した。

さらに登ると、鎖の付いた岩場が現れた。足場のない一枚岩を鎖を頼りに登るため、サポートをしっかりと行う。ここを全員がクリアし、さらに登ると、展望が開け気持ちの良い場所が続く。



薬師岳山頂にて

山頂の一画に立ち、さらに山頂をめざす。マルバシモツケなどが、たくさん咲いていた。近いようでなかなか着かない山頂にようやく到着する。早池峰山の山頂付近は、雲に隠れているが、東側や南側の山々が見え、まずまずの展望だった。

記念写真を撮って、山頂を後にする。岩が多いので、慎重に下る。途中で山頂をあきらめ待っていたTさんと合流し、樹林帯へと入っていく。小田越に着き、予定のバスより1本あとの

最終バスで岳に向かう。民宿「大和坊」さんに泊まり、汗を流して、翌日の早池峰山に向けて英気を養う。

7月27日

岳から、予定より1本早い始発バスに乗り、河原の坊で下車する。ここで、携帯トイレを買って出発する。どんよりとした雲がたれ込み、雨が降らないことを祈るばかりだった。

最初の支流の沢を渡り、その後、3回ほどコメガモリ沢を渡る。センジュガンピやミソガワソウなどが楽しませてくれる。

沢が上がってくると、カワラナデシコやクルマユリも見られ始めた。コウベコウリが近づく頃、目の前の雲がパッと晴れて、山頂付近が見えた。その後、雲に包まれたりしながら、天気は次第に良くなっていった。



コメガモリ沢から見上げた早池峰山

コウベコウリを過ぎると、花は一気に増えてくる。ミネウスユキソウやお目当てのハヤチネウスユキソウも現れ始めた。ハクサンチドリに



次第に急峻な岩の道になってくる

オオバギボウシ、ヨツバシオガマ、イブキジャ

コウソウ、ミヤマオダマキ、ミヤマアケボノソウ、ミヤマアズマギクなどが、そこかしこに咲いている。

高度を上げてくると、岩場が出始めた。大きな打石を過ぎ、さらに登ると、鎖の付いた一枚岩がでてきた。ここも、鎖を使って難なく通過。次第にペースが落ちてきたが、今まで包まれていた霧が晴れ、青空が眩しくなってきた。

10時45分に山頂到着。ここで少し早いがお昼にする。山頂からは、残念ながら展望は得られなかったが、東側は麓や雲海が見られた。Yさんが、お湯を沸かしてコーヒーを振る舞ってくださった。記念写真を撮影して、小田越コースに向かう。



山頂付近は緩やかなお花畑となっている。今までなかったコバイケイソウが咲き、ハクサンボウフウのお花畑も美しかった。ホソバツメクサが小さな星くずのような花をちりばめ、ハヤチネウスユキソウは、登山道脇で無数に見られた。

八合目で休憩したあと、有名な梯子場に着いた。ホームページなどで他の方の報告を読むと、かなりの悪場と想像していたが、普通の岩場で、

申し訳ないのですが、私は前向きに下らせてもらった。二つ目の梯子は、梯子を使うよりも、右側の岩場を下った方が楽そうだったので、そちらを下った。



緩やかな斜面が広がる五合目を過ぎ、岩場混じりの登山道をゆっくりと下る。目の前の雲が切れ、小田越の小屋の屋根と昨日登った薬師岳がよく見えた。大きな岩が積み重なったところを過ぎると、樹林帯に入る。道も歩きやすくなり、木道が現れてきた。タケシマランやオオバタケシマランの実が、真っ赤に熟してぶら下がっている。

予定のバスの1時間程前に小田越に到着。天気予報が外れ、素晴らしい天気にも恵まれ、ヒカリゴケや百花繚乱の山を楽しみ、充実した二日間でした。

### コースタイム

7/26 河原の坊(11:00)...小田越(11:35-12:05)...  
薬師岳(14:05-14:20)...小田越(16:05)  
7/27 河原の坊(6:00)...コウベコウリ  
(7:55-8:00)...早池峰山(10:45-11:15)...小  
田越(14:00)

景信山と三ツ峠山、リーダー養成コースの大滝沢は雨のため中止させていただきました。

## 講習会報告

### 岩登り技術講習会(日和田山)(6月1日)

参加者 会員(障害者1名、健常者5名)

会員外(健常者1名)

今回は、会員外で岩登り経験の豊富なMさんを迎え、総勢7名で講習会を行った。

好天に恵まれ、春らしい陽気だったため、岩場は大混雑で、入門ルートの方岩南面は、ザイルのすだれのような感じだった。

そのため、男岩南面から練習を始めた。Mさんにザイルをセットしていただいている間、一番右の傾斜の緩い岩場で、3点支持の練習を行う。次ぎに、凹角から上部のクラック(4級+)に抜けるルートをみんなで完登する。

早めに昼食を取り、食後は一番空いている女岩のチムニーを登る。ここも、みんな完登。最後に、Mさんから大ハングルートを登りたいという話があり、みんなでトライすることにする。

## その他事業報告

### 第6回ミニハイキング(ほたるの里)(6月28日)

参加者 会員(健常者12名)

会員外(障害者2名、健常者6名)

このところ、気温があまり上昇しないので、ほたるが出るか心配だったが、計画通り実施した。当日の飛び入り参加もあって、総勢20人となった。

米本団地のバス停から道の駅(八千代ふるさとステーション)まで歩き、トイレなどを済ませて出発する。歩き始めると、ポツポツ雨が降ってきたが、すぐに止んだ。新川沿いを歩くと、すぐにほたるの里が見えてきた。思ったよりもかなり早く着いてしまい、暗くなるまで、散歩

下部の壁を抜ける関門が難しく、突破はほとんどできなかったが、岩場からはがされて、みんな空遊泳を楽しんでいた。



男岩を登るFさん

上半身の筋肉もたっぷり使い、充実感いっぱい、高麗駅まで戻り、電車の時間まで、駅前の隅でシートを広げて、反省会となりました。しかし、回数を重ねる毎に、みなさん少しずつ上手くなっていることを実感した1日でした。

をする。肝試しに良いという神社を探してきた人もいたが、もっと怖い場所があると、浅間神社に登ることにした。竹林の中の、すごく急なところを登ると、神社に到着。ここは、民家のすぐ上だった。



ほたるの里にて

さらに、福祉作業所のつばさも見に行っただ。ここには、友愛みどり園のAさんも、通っていたらしい。高台のため、見晴がよい。下の道路脇には、農園もあった。

来た道を引き返し、ほたるの里で、暗くなるのを待つ。暗くなるに連れて、家族連れなどが増えてきた。何人かの人、ライトをチカチカして、ほたるを呼ぼうと頑張ったが、なかなか現れない。帰る予定時間を30分延長して、20時まで待つことにする。もうダメかなと思った頃、Oさんが、「いたわよ」とみんなを呼びに来た。ほたるがいたところは、何とほたるの里と隣接した田んぼだった。イネの根本近くに、白い明かりが光っていた。

他の家族連れなど、みんながよってきた。何とか一匹だけが見ることができて良かった。

### 第3回ふれあいキャンプ(山のふるさと村)(8月23日~24日)「学びあい」

参加者 会員(視覚障害者5名、健常者12名)  
会員外(健常者11名、内子ども8人)

8月23日

週末の天気はだんだん悪い予報となり、祈るような気持ちだったが、やはり雨模様の天気になってしまった。

奥多摩駅に全員集合し、山のふるさと村の送迎バスや、自家用車で山のふるさと村まで移動する。幸いまだ雨は降っていない。

山のふるさと村に到着し、河原で昼食を食べることにする。河原に着いたらポツポツと雨が降り始めた。しかし、それ以上強くなる感じではなかったため、シートを敷いて昼食を取る。マスの掴み取りをしている他のグループもいた。

昼食後、キャンプ場に移動する。テントをみんなで張ろうと思ったが、雨だったため、キャンプ場の方がすでに張ってくださった。変

しかも、制限時間ぎりぎりが出てきてくれた。この一匹を見たら、他のグループもみんな解散して行った。私たちも、車で駅に帰るグループとバスで帰るグループに分かれ、私たちは米本団地のバス停に向かった。

#### コースタイム

米本団地バス停(17:20) ... 道の駅(17:30-17:45) ... ほたるの里(18:00) ... 浅間神社(18:15-18:30) ... ほたるの里(18:45-20:00) ... 米本団地入口バス停(20:20)

更の電話をしづらかったため、とてもありがたかった。



石垣登りを楽しむ子どもたち

レンタル品をお借りした後、キャンプ場にある石垣に登ってみることにする。大人は躊躇している方が多かったが、子どもたちはどんどん登って、上でバンザイをしている。普段、こんな遊びはなかなかできないと思うが、多くの大人が見守りの中で、岩登りのまねができて楽しかったと思う。

その後、夕食の準備にかかるが、人数が多すぎるため、数人で山道の散歩に行くことにした。キャンプ場の上の尾根に上がり、山道を登っていく。30分ほど登ったところで、車道に出会い、ここで引き返す。

5歳のS君と小学校3年生のK君は、大人をどんどん引き離し、走るように下っている。何

度か後の人たちを待ったが、あっという間にキャンプ場に帰り着いてしまった。



山道の散歩を楽しんだ

今日の夕食は、甘口と辛口のカレーライス、焼きそば、サラダ、スープなどだ。乾杯の後、お釜で焚いたごはんをよそい、美味しくいただいた。まだ暗くなっていないが、キャンプファ



キャンプファイヤーを楽しむ

イヤーにも火を放ち、スイカ割りも始まった。今回は、棒がしっかりしていたためか、最後の高校生T君が、しっかりと割ってくれた。スイカを2個割った後は、キャンプファイヤーを囲んで、歌合戦だ。Sさんから、懐かしい「さら

ばハイセーコー」まで飛び出した。テントの中でもにぎやかに遊ぶ声がしていたが、21時30分頃には、全員眠りにつく。

8月24日

今日は、やはり雨で明けた。

みんなで朝食を作って食べる。朝食は、おじや、パン、焼きおにぎり、スクランブルエッグ、ウイナー、サラダなどだ。できるだけ残さないように、腹が大きく膨らむまで食べる。

後片づけの後、全員で記念写真を撮る。本来は、キャンプ場から奥多摩の畔を歩き、麦山の浮き橋を渡って、小河内神社まで歩く予定だったが、あいにくの雨のため、帰りも送迎バスと自家用車で送っていただく。車を出していただいたHさんとAさんに感謝です。



雨のキャンプ場にて

今回のキャンプも多くの方のご協力で、無事に実施することができました。ご協力を深く感謝申し上げます。

家庭の事情により、8月末で実家の兵庫県に帰った山本浩さんからお便りが届きました。山本さん、3年間、大変お世話になりました。静かに自然や人を見つめ、疲れた人がいたら、ザックを持ってくれる気は優しく力持ちの山本さんに、多くの方が元気をもらったことと思います。山本さんが参加できなくなることは、山仲間アルプにとって大きな痛手ですが、みんなの力を結集して、活動を推進していきたいと思います。兵庫県でのご活躍を願っています。お元気で！

## アルプの3年

私が山仲間アルプに入会してから早くも3年と少しが経ちました。アルプへの入会のきっかけは、雑誌でアルプの紹介記事を読んだことでした。その時に、目の見えない方に自分の大好きな山の景色を伝えるためのお手伝いができればと考え、早速顔を出すことにしました。最初に参加したのは岩登り講習で、視障者の方が岩を登る姿を見て、お互いに協力すれば必ず一緒に山登りができると確信し、入会を決めました。

最初は自分にサポートなどできるのかという不安もありました。しかし、アルプに入って間もないころのある山行で、ある全盲の方に景色を説明していたところ、「あら、きれいねえ」と言ってもらえました。これまで3年ほどの間この活動を続けてこられたのは、この一言があったからだと言っても過言ではありません。その時、同じ山好きの人間が感動を共有できたという実感が持てました。また、これが「ともに楽しむ」ということかと私なりに解釈した瞬間でもありました。

アルプの良いところは晴眼者も視障者も分け隔てなく山を楽しめる点にあると思っています。入会する前は一緒に登るといえることがどういうことかあまり想像が付きませんでした。実際に山に登ってみると区別なくはしゃいでいらっしやるので、正直に言うと驚きました。私自身、サポートをしていても緊張したり、過剰に意識したりすることはほとんどありませんでした。それよりも、私にとって重要だったのは、パーティーと山登りを楽しむということでした。

私がいつも一番後ろを歩いていたのは、あまりしゃべるのが得意ではないというのがもともとの理由でした。ただ、後ろからみなさんの様子を見てみると、山登りの意義を深く考えさせられました。山は景色だけでなく、花や鳥など自然界のあらゆるものが楽しめますが、その一つ一つに感動しながら登るみなさんの姿から、山の楽しみ方を教わりました。そして、そういうみなさんを見ながら歩くのがアルプでの一つの楽しみでした。

子供登山教室(当時)では、最初は子供たちに対して模範を示さなければならないとも思いましたが、結局は大人が楽しんで登っている姿を子供たちに見せ、山登りは楽しいという印象を持ってもらうのが最も大切なことだと考えるようになりました。そして、それを感じ取ってくれたかどうかはわかりませんが、子供たちがとても喜んでくれたのが教室の一番の成果だったと感じています。第1回、第2回、そして今後の活動を通して、子供たちが生涯山を楽しんでくれることを願ってやみません。

今後アルプでの活動はほとんどできなくなりますが、思い出や体験したこと、学んだことは一生の宝物になると思っています。子供達も含め、皆さんと出会い、かかわれたことは、私にとって山登りを根本から見つめなおす転機でした。このような素晴らしい機会を与えてくださったことに感謝するばかりです。山を続けている限り、またみなさんとどこかでご一緒できると思います。その時までどうぞお元気で山登りを楽しんでいてください。

H . Y

## 各種連絡事項

### 「学びあい、支えあい」地域活性化推進事業

2008年度も「学びあい、支えあい」地域活性化推進事業の実施団体として、事業を行うことになりました。この事業は、会員と会員外で参加費が違ってはいけないという規定のため、参加費が同額となっていますが、ご了承お願いいたします。

そのため、会員でない方のお試し参加には、最適の事業と思います。保険もこの事業一括で加入しています。お知り合いの方で、一度お試し参加してみようと思っている方がいましたら、ぜひこの機会にお誘いください。

### 立教大学から実習生の参加

今年も、秋以降、立教大学のコミュニティ福祉学部の学生さんが15人くらい大学のゼミの一環として参加して下さります。不慣れなことも多く、会員のみなさまにご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、若い人たちにやってあげる側とやってもらう側という関係

ではなく、共に楽しむことを通じて、真の思いやりと感謝の心が育まれることを実感してもらえと思っています。みなさまの個性を發揮して、若者たちを受け入れていただけますよう、ご協力をよろしくお願いいたします。

## 今後の計画

10月以降の詳細計画を作成しました。秋以降は日帰りの登山が主体となりますが、紅葉や澄んだ空気の中での展望を楽しめます。12月

には、石老山での清掃登山や弘法山の忘年山行もあります。ふるってご参加ください。

## 会員情報

### 新入会員のお知らせ

6月以降、下記の方が新しく入会されましたので、よろしくお願いいたします。(敬称略)(賛助員から正会員に変更した方を含みます)また、2名の方が賛助員になって下さりました。

正会員(2名)、未成年会員(1名)

## 編集後記

### ・理事長のつぶやき

今年度の「自然と親しむ子ども山登り教室」も全日程を終え、無事に終了しました。みなさ

まのご協力で深く感謝申し上げます。おかげさまで、子どもたちに雄大な自然のすばらしさを

実感してもらえたと思います。山は、美しさ、やさしさ、厳しさ、怖さなど、多くの要素を持ち、子どもたちにとって山から得るものはきっと大きなものがあると思います。今回の経験を、子どもたちにはきっと今後の人格形成に生かしてもらえるものと思います。

・次回発行予定は、12月です。

また、秋からは立教大学の学生さんたちもゼミの一環で参加して下さります。学生さんたちにも、いろんな個性を持った人たちが共に楽しむことの大切さと共に、自然のすばらしさを実感してもらいたいと思っています。みなさまのご協力をよろしくお願いいたします。

参加申し込みやお問い合わせは事務局まで  
〒276-0022 千葉県八千代市上高野 1161-1-208  
NPO 法人山仲間アルプ事務局 網干 勝  
TEL.047-484-8308

障害の有無も、年齢も、男女も関係なく、みんなで山を楽しみたいね。自然は、誰に対しても平等だよ！！

